



かがやき自立活動通信

平成27年3月11日
草加かがやき特別支援学校 自立活動専任



ご卒業おめでとうございます。



特集 「1年を振り返って」

今年度1年間、たくさんの先生方と自立活動の授業をしてきたり、保護者とお話をする機会を持つことができました。その中で「子どもがやってくれない理由」「子どもがそう行動する理由」を探ることが大切だと、いつも感じてきました。

理由をたくさん考えてみよう！

子どもの行動の理由を考える時は、できるだけたくさん理由を考えるようにします。ひとりでは2つくらいしか考えられなくても、何人かで考えてみれば5～10くらいは出てくるかもしれません。考えられる理由がたくさんあるということは、その数だけ打つ手の可能性があるということです。

例 ○○の課題をやらない。

- 理由 *
- 「○○をやります」という話を聞いていなかった。
 - 話を聞いていたが、自分に向けられて話していると気付かなかった。
 - 話の内容がよくわからなかった。
 - 気になることがあって、切り上げられなかった。
 - やり方がわからなかったので、人がやるのを見てからやろうと思っていた。
 - やり方がわからなかったが、聞くことができなかった。
 - 自信がなくて、失敗すると怒られそうなので、やらなかった。
 - 周りの友だちのやり方が説明と違うので、不安になってできなかった。

子どもたちと接する時に大切なのは、次の2点です。

(1) わかりやすく伝える。

視覚支援をしたり、簡潔に伝える工夫をします。易しい言葉を使います。早口ではなく、ゆっくり子どもの顔を見ながら話します。押し付けるような伝え方をするだけで、受け入れられなくなってしまう子どももいます。

伝えるのと同時に「大丈夫？」と確認をすることも大切です。「わからなかったら聞かなくちゃ！」と言う前に、聞くタイミングがわからなかったり、何と聞いてよいのかわからない子どもたちもいることを忘れてはいけません。子どもを責める前に、自分の伝え方が適切だったか振り返ってみましょう。

(2) 子どもの気持ちに寄り添う。

子どもの言いなりになるのとは違います。子どもたちは社会の中で、集団の中で生きて行きます。「これをやってほしい」「これをやらないとみんなが困る」のメッセージをしっかり伝えつつ、どうすればやる気になってくれるのかを探っていきます。

子どもとのやりとりはコミュニケーションです！

「子どもに負けちゃダメだよ」という話をしたことがありますし、聞いてきたこともあります。でも「そうなのかな？」と疑問を感じることもあります。教員や支援者は勝者でなくてはいけないのでしょうか？子どもはいつも敗者の側で、従わなくてはならない存在なののでしょうか？子どもに負けてしまった人はダメな人なののでしょうか？大人はそんなに完全な存在なののでしょうか？

目の前の課題を素直にやってくれる子どもは、支援者としては「扱いやすい」けれど、人間として豊かな育ちをしているのでしょうか？

説得して、納得してもらえそうなコミュニケーションをして行きましょう。どうしても戦わなくてはならないときは、51対49の僅差で勝てるようにしましょう。子どもがやってくれたことに、ねぎらいの声をかけましょう。

勝負のようなかわりをする、次に同じような場面に遭遇した時が大変ですし、他の人がかかわる時も大変になります。

人とのつながりを大切にして支援にあたりましょう！

ご家庭と学校との関係も同様と考えています。

子どもとのやりとりを「勝ち負け」「正しい・正しくない」で捉えてしまうと、「どうして学校では〇〇してくれないんだろう？」「どうして家で〇〇をやらせてしまうんだろう？」と批判しあうことになりかねません。また「今まで〇〇してあげられなくて…」とご自身を責めている保護者のお話を聞いたこともあります。

誰もが子どもにとってよりよい支援をしてあげたいと思っているはずですが、いろいろな状況で、ベストの支援はできなかったかもしれないけれど、ベターの選択肢は採ってきたはずですが、コミュニケーションを取って行くことで、そういう選択肢を採らざるを得なかった背景を理解することができるかもしれません。

こんな話がありました。夕方になると、お母様は夕食の準備で子どもに十分にかかわれず、子どもは大きな声を出したり、壁を蹴ったりする行動があったようです。お母様はお菓子をあげて、子どもを落ち着かせていました。どうしても肥満になってしまいます。「お菓子なんか買うからいけないんだ」という声もありました。でも、実は近所に寝たきりの人がいて、そのお宅から「夕方になるとうるさい」というクレームが来ていたのだそうです。お菓子なんかあげてはいけなくて十分にわかってはいましたが、そうしないとどうすることもできなかったのだそうです。必要な支援は肥満対策ではなく、落ち着いてその時間を過ごせるための方法だったのです。お菓子をあげざるを得なかった背景を理解することがまずは必要でした。

子どもたちはとても敏感な面を持っています。子どもたちを支援する大人たちが同じ目標を目指して力を合わせている姿が、子どもたちに安心をもたらし、子どもの成長に大きく影響を及ぼすと考えることができます。



自立ノート

昨年開催した「先輩ママの話を聞く会」で、卒業してしまうと、保護者同士のつながりが一気に薄くなってしまおうというお話がありました。地域の情報は重要で、保護者同士のネットワークは卒業後も大切だと思います。

『かがやき自立活動通信』は学校のホームページから見ることもできますので、卒業後も時々覗いてみてください。卒業生や保護者の皆様にも使っていただける情報をお伝えして行きたいと考えています。